工場法案ニ關スル請願

2764

1.4
A 2557

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

今回農商務省ハ工場法制定ノ目的ヲ以テ工場法案ヲ各地商業會議所ニ諮詢セラレタリ抑モ工場法ナルモノハ我國工業經濟ニ關係ヲ及ホスコト密ナルヲ以テ之レカ發布ノ時期ノ如キ最モ慎重注意ヲ要スルハ勿論ニシテ一歩ヲ誤レハ工業ノ前途蹉跌ノ憂ナレトセス熟々該法案ヲ視ルニ其理由トスル処一方ニ於テハ工業者ノ為メニ其事業經營ノ確實ヲ圖リ他方ニ於テハ労力ノ強健ヲ企フルニ在リテ頗ル見ル可キモノアルカ如シト雖モ審サニ本邦工業ノ

狀態ヲ察スルニ工場法制定ノ時期ハ尚早キニ失スルヨトヲ確信スルモノナリ左ニ少シク其理由ヲ開陳セン

我國ノ工業ハ未タ幼稚ノ狀態ニ在リテ歐米諸國ニ及ハサルヨト遠ク後テ自今ノ自由ノ發達ヲ要スヘキニモ拘ハラス此幼稚ナル工業ニ對シテ豫メ法律ヲ以テ箝束シ工場ノ取締ヲ規定スルノ酷タ不可ナルヲ認メサルヲ得ス蓋シ彼ノ歐米諸國工業ノ組織ニ於テハ傭者被傭者ノ關係上實際ノ必要ニ促サレテ工場法ナルモノヲ制定セサルヲ得サルニ至リシト雖モ本邦ニ於テハ工業主ト勞働者トノ關係ハ之レト趣ヲ異ニシ宛モ主從師弟ノ如ク家族的親睦情義ヲ存シ其間未タ曾テ權利義務ノ紛議ヲ見ス是レ尚本邦工業界ノ特質トスル美風ニシテ世界ニ誇ル所以ナリ然ルニ徒ニ外國法ヲ摸倣シ新ニ權利義務ノ關係ヲ規定スルハ即チ本邦特種ノ美風ヲ破壞セントスルモノナラスンハアラス且ツ夫レ戰後我國ノ工業界ハ稍ヽ膨脹ノ外觀ヲ呈セシト雖モ其實毫モ發達進歩シタルモノナク殊ニ近年經濟界不振ノ際工業ノ前途大ニ憂慮スヘキモノ存スルハ何人モ認ムル

所ナリ之ヲ以テ工場法ヲ制定スルモ現今ノ如キ工業不振ノ状態ニ在リテハ工場法ノ一目的タル労働者ノ生理的及道德的健全ヲ圖ルニ於テ何等ノ稗益スル所ナク啻ニ工業主ノ利益ヲ害スルノミナラス從テ労働者ニ不利益ヲ及ホサスンハアラス況ンヤ將来一方ニ於テハ歐米人ニ對シ他方ニ於テハ支那人ニ對シ工業上競爭スヘキノ時ニ當テ機械ノ精巧技術ノ熟練金利ノ低廉ナル点ニ於テハ前者ニ及ハス労働ノ点ニ於テハ支那人ニ及ハサルヲ以テ彼等ト競爭上尠カラサル危険アルニ於テオヤ是ヲ思ヒ彼ヲ想ヘハ政府ハ今日工場法ノ如キモノヲ制定スルヨリモ寧ロ專心工業ノ發達ヲ奬勵スルヲ以テ急務ナリト信スルナリ或ハ改正條約實施後外國人タル職工ヲ我工場ニ使用セントスルニ當リ工場法ハ最モ具必要ヲ感スルモノナリト云フモノアレトモ之レ思ハサルノ甚シキモノナリ何ントナレハ如此事實ハ幾ント杞憂ニ屬シ工場法實施ノ結果ハ從来平和ナル所ノ工業主ト労働者間ニ却テ紛議ヲ誘起スルノ媒介ヲ作ルモノニシテ真ニ嘆ヤ蓋シ恐ルヘキモノアレハナリ之ヲ要スルニ我幼稚ノ工業

界ニ目下工場法ノ制定ハ時期尚早キヲ以テ其
實施ノ曉ニハ必スヤ工業ノ発達ヲ阻害シ國家
経済ヲ衰頽セシムヘキヲ疑ハス依テ工場法ノ制
定ハ尚數年ノ後ニ於テセラレンコトヲ望ム謹テ
請願仕候也

明治三十一年十月廿一日

京都工業會社同盟會代表者
京都紡績株式會社專務取締役
幹事　藤村岩次郎

日本絹絲紡績株式會社專務取締役
委員　横田萬壽之助

平安紡績株式會社取締役
仝　萩野芳藏

第一絹絲紡績株式會社取締役
仝　青山長祐

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿